

まちひとしごと

Vol. 65

株式会社

グリーンアースファーム

代表取締役 山田 光宏 さん

未来を見据えた 持続可能な農業への挑戦



株 式会社グリーンアースファームの山田光宏さんは、町内で馬鈴薯やスイートコーンなど11種類の作物を育てている。岐阜県美濃加茂市で生まれ育った山田さんは、実家が営んでいる酪農業を学ぶために道内の農業系大学へ進学。その後結婚を機に倶知安町へ移住した。

「農家として、酪農の経験はありませんでしたが、畑作農業は北海道に来て初めて経験しました。大きなトラクターに乗って広大な農地を耕し、たくさんの作物を育てることや、収穫の楽しさに魅力を感じ

じ、畑作農家になることを決めました。」

農業経営を行う中で、近年の気候変動や資材高騰もあり、さまざまな課題を抱えていると話す。

「コスト削減を行うのではなく、生産量を増やしたり、商品の価値を上げたりすることで経営を安定させていきたいと考えています。そのためには気候変動に負けない土づくりからはじめ、肥料の使い方や、暑さや乾燥などに強くなるバイオステイミュラント資材を活用して畑の環境を整え、最大限の生産を行えるようにしています。それに加えてふるさと納税や、オンライン販売サイトを活用することで、新鮮な作物を直接お届けできるようにしています。」

株式会社グリーンアースファームでは現在、町内で作付けの少ない、ごぼうや長いもなどの越冬作物にも力を入れている。

「体力的な厳しさや、寒い中でも品質を保つための工夫など、大変な部分もありますが、馬鈴薯を中心とした作物と同時に越冬作物を生産することで、秋の収穫以降も収入を確保することができ、従業員の雇用の創出にも繋がっています。人手が増え、さまざまな作

業に人員を配置できるようになったことで、先を見据えた計画を立てられるようになり、これまで作付けを拡大できなかった作物についても、面積を広げた生産に挑戦できるようになりました。」

休日には4人のお子さんと過ごすのが趣味という山田さん。大きな農地で作物を育てるのが楽しくて始めた畑作農業だったが、これからの未来を担う世代のためにも、多世代にわたって作物を作り続けられる持続可能な農業経営の実現に向けて動き続けている。

『これからも新しい品種の生産に挑戦したい』と語るその目には、社会や環境の変化に向き合っていく強い気持ちが感じられた。

*アミノ酸や海藻エキスなどを活用した、肥料や農薬とは異なる新しい農業・園芸資材

※まちひとしごとは不定期連載です